

身近なバリアを考える体験 実施例

◎身近なバリアに気づき、バリアフリーについて考えるワーク

「妖怪バリアー」は、人をのけものにする所が大好きな妖怪・・・
実は、学校内にもいっぱい潜んでいます
でも大丈夫、バリアー退治のお札があるから！

学校内のフィールドワークに出る（各班、校内の妖怪バリアーが好みそうな場所を見つけ、お札を貼って
デジカメで写真を撮る）

部屋に戻って、お札の裏面の

- ① 妖怪名決定
- ② だれにとってバリアになるの？
- ③ なにが問題なの？
- ④ どうしたら解決するの？
- ⑤ 解決のために、まず自分にできることは何かある？ を、各班で話合う】

各班の代表者が、写真を大きく写しながらお札の裏面の5点を発表
講師のコメントをもらったら、お札の効果発動！！



【楽しみながら、身近なバリアの存在に気づき、そのバリアをどうなくしていくのかを考え、解決方

法は色々あることに気づく】

◎「転校生の〇〇さんがやって来た」

様々な障害のある講師の方々が、転校生として来校
自己紹介を聞くと・・・

（例えば車いすを使用している講師の場合）

「うちのクラス、4階にあるけどどうするの？」

「体育、今、なわとびやってるけどでけへんやん！！」

わき起こる「どないするねん？」という疑問・・・

一緒に学校生活をおくる上で、「これ困るんちゃうか？」ということをもみんなで出し合い、
転校生（講師）と一緒に、その「こまりごと」の解決方法を考えてみるワークです

【転校生の立場になって、困ることをイメージし、クラス全員で、転校生（講師）と一緒に解決方法

を考える。その経験を通して、障害のある当事者の意見をききながら解決方法を考える楽しさ、その

大切さを感じる】

